



JFVSS Newsletter

内視鏡

コロラドも徐々に温かくなり、日も延びてきており、少しずつですが春の空気が漂ってきています。自分の生活といえば残念ながらあまり外の気候は関係なく、相変わらず診療に授業に研究にと日々忙しく、時間があっという間に過ぎていく感じです。レジデントになってからは皮膚や神経など他の科にローテーションで行く週がたまにあり、自分の不得意な科に回ると、知識不足に加え慣れない環境や英語の専門用語なので非常に精神的に疲れます（勿論勉強にもなる）。ただ内科にいるときと比べ自分が担当する症例は少ないですし、週末は基本休めるので、その間デスクワークに当てたり、勉強したりできるのは有り難いです。

内科は外科などと違い、腕（技術）で勝負というよりは頭（話術？）で勝負という場面が多いのですが、そんな内科医の腕の見せ所が内視鏡になります（それほど高度な技術でもないですが・・・）。コロラド州立大学では消化管、気管支、鼻腔、膀胱および腹腔（主に肝臓の生検）の内視鏡は内科が担当します（胸腔鏡は外科が行う）。こちらに来るまで消化管内視鏡を少し使ったことがある程度だったので最初の頃は内視鏡の扱いも苦労しましたが、徐々にコツがつかめてきて随分ましに扱えるようになってきました。特に気管支鏡と気管支肺胞洗浄は経験もなく、どちらかというところ「すでに呼吸機能が正常でない症例の肺に水入れて大丈夫？」なんてネガティブなイメージも持っていましたが、実際やってみると検査後に合併症が起る確率も少なく、得られる情報も多いため今ではお気に入りの検査の一つです。知らない事や経験の無い事を人は恐れがちですが、実際やってみると大した事ないって経験よくありますよね。何にでも当てはまると思いますが、積極的に挑戦して実際に自分で経験してみる（時には痛い目も）というのは非常に重要なことだと思います。

佐藤 雅彦

